

廖承志研究会第一回研究会議事録

2011.4. 9 14:00~17:00 於東京大学駒場キャンパス 18号館コラボルーム4

参加者:

王雪萍(東京大学)、大澤武司(熊本学園大学)、杉浦康之(防衛省防衛研究所)、山影統(早稲田大学・非)

議題:

1. 慶應義塾大学東アジア研究所現代中国研究センター研究プロジェクト実施方法などについての紹介

※議事録・HP担当

※会計担当

※中間報告

※ワークショップ報告

2. 参加者による研究内容の紹介

3. 次回スケジュール

議事録:

廖承志集团研究会第一回研究会が2011年4月9日東京大学にて行われ、今後の研究会運営の取り決めや研究の方向性について議論が行われた。各議論の主な内容は以下の通りである。

1. 慶應義塾大学東アジア研究所現代中国研究センター研究プロジェクト実施方法などについての紹介。

議事録・HPと会計は山影が担当することが決定された。運営や予算の執行についての説明がなされた。今年8月に開催予定の中間報告会までにインタビュー等一定の成果を報告できるように努める事が確認された。ワークショップ報告は年に3~4回オープン形式で行われることが確認された(次回6月18日開催予定)。

2. 参加者による研究内容の紹介

今後の研究の方向性と問題点が議論された。

※研究のテーマは廖承志集团(実務者集团)を中心として行う事が確認された。廖承志は政策決定者にも影響を及ぼし、かつ、一つの事務を長く務めた人物であり、中国の対外政策を知る上でもまた、日中関係の構造的理解のためにも極めて重要である。当研究会では、従来の政策決定者に焦点を当てた研究で無く、より実務者の視点を重視した実証的な研究をめざす事が確認された。

※外交部の対日業務を長年務められた周斌氏をはじめ、当時の日中関係実務担当者に当時の日中関係についてのインタビューを行うよう調整を進めることが確認された。

※政治機関の「廖辦」と人的ネットワークの「廖班」の構造についてどのように規定すべきか議論された。

3. 次回スケジュール

次回の研究会は6月18日（土曜日 14:00～17:00）に東京大学にてオープン形式で行う事が決定された（場所の詳細は未定）。内容は共同研究者による研究構想の発表（発表15分：質疑15分）。